

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
279	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Personalized mailed feedback for college drinking prevention: a randomized clinical trial. 大学生への飲酒予防に関する個別郵送法によるフィードバック：無作為化臨床試験	
執筆者	
Larimer ME, Lee CM, Kilmer JR, Fabiano PM, Stark CB, Geisner IM, Mallett KA, Lostutter TW, Cronce JM, Feeney M, Neighbors C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Consult Clin Psychol. 2007 Apr;75(2):285-93.	
キーワード	
大学、アルコール、技能、短期介入、動機づけ	
要 旨	
<p>目的： 郵送法による大学生への一般的な飲酒予防の介入法の効果を検証する。</p> <p>方法： 1,488名の参加者をベースライン調査だけの群(対照群)とその後にメールでフィードバックをうける群(介入群)に無作為に割り付けた。</p> <p>結果： 介入群は対照群に較べて飲酒量が少なく、メールによるフィードバックは飲酒に関して予防的な効果が示唆された。対照群は介入群に比べて、ベースライン時に非飲酒者であった者が追跡後に飲酒を経験していた割合が約2倍であった(オッズ比2.02)。また、介入群は対照群に比べて一時的な大量飲酒を控える傾向がみられた(オッズ比1.43)。性別とベースライン時の飲酒程度で調整しても介入の効果を弱めなかった。最新のデータを用いてさらに解析を進めると非飲酒者の多い女性でより強い予防的効果的がみられた。介入を受けた群が飲酒量の上限を設けたり、ノンアルコール飲料に変えるなど、より計画的であり、これらの予防的行動が介入の効果を示した。</p> <p>結論： この研究は、大学生における一般的な飲酒の予防効果に関する新たな知見を示し、議論を喚起するものである。</p>	